



笑顔

～やればできる！

夢かなうまで、真っ向勝負！～

自立・勤勉・礼儀

令和7年6月30日 No.5 発行者：校長 岩波 宏明

学校教育目標

生徒一人一人の個性や能力の伸長を図り、徳・知・体の調和のとれた心豊かな人間の育成に努める。

あなたの言葉や行動で傷ついている人いませんか？

人は誰もみな壊れやすい心をもっています。それはまるでガラスのようです。人の心はきらきらと輝いて美しい半面、傷つきやすく、もろいものです。だから周りの人のちょっとした言葉で傷つき、ひどい時は粉々に壊れてしまいます。

また、人は誰もみなナイフのように切れ味の鋭い刃物を持っています。こう言えば、おそらくほとんどの人は、「私は持っていない」と反論するのでしょうか。でも、いくら否定しようとも持っているのではないのでしょうか。

それは「バカ」「キモイ」「ウザイ」「死ね」などの言葉の刃物です。そして「無視する」「避ける」などの行動の刃物です。使う使わないはその人次第ですが、「いじめ、からかい、差別をするのはいけない」と、みんな頭では分かっています。でも、ついうっかりやってしまうのが人間です。

人は誰も傷つきやすい心と、他人を切りつける刃物を持っていることを自覚しなければいけません。

自分は面白半分で言ったことでも、相手が傷ついていることがあります。自分は冗談のつもりでとった行動でも、相手が立ち直れないほどのショックを受けることもあります。もし、自分が知らないうちに、その刃物で人を傷つけているならば、怖いことだと思いませんか？

「はがねの刃物」は身体を切りますが、「言葉の刃物」は心を切り刻みます。心も身体も切られれば傷つくし、痛みもします。ひどい時は死んでしまうことだってあります。身体を切られたら、赤い血が流れる。心を傷つけられたら、うめき声がもれる。どちらも耐えがたい痛みですが、「言葉の刃物」は目に見えないからよけいに怖いです。

あなたの言葉で周りの人の心がズタズタに切りさかれていても、目に見えないからその痛みが分かりません。だから、あなたも私も、ついついふざけ半分で使うことがあるかもしれせん。

「はがねの刃物」は使わないように、持たないように気をつけることができますが、「行動の刃物」も知らないうちに、ついうっかり使ってしまう。「もしかしたらこれまでに自分も使ったのではないか」「ひょっとしたら、多くの人の心を傷つけたかもしれない」、そう振り返ることで、その刃物を使わないように気をつけるしかありません。そうして、こんなに怖い刃物だから「今の言葉は周りに嫌な思いをさせなかったか」「この行動で相手の心を傷つけなかったか」いつでも、どこでも相手の立場に立って、自分の言葉を振り返る以外に、この刃物をなくす方法はないと思います。そうやって「せめてクラスの中から、ひいては学校全体から、最終的にはこの世からなくしていく努力をしなければ」と気づいてほしいです。そのために、まず自分の中からなくす努力をしていきましょう。